

製品名: カルモジュリン (リン酸化 Thr80/S82) ウサギポリクローナル抗体

カタログ番号: APRab04352

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	リン酸化
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください (12 ヶ月有効)。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:200-1:1000,ELISA 1:5000-1:10000
分子量	

抗原情報

遺伝子名	CALM1
別名	CALM1; CALM; CAM; CAM1; CALM2; CAM2; CAMB; CALM3; CALML2; CAM3; CAMC; CAMIII; Calmodulin; CaM
遺伝子 ID	801/805/808
SwissProt ID	P62158
免疫原	抗血清は、Thr79 と Ser81 のリン酸化部位周辺のヒトカルモジュリン由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 46-95

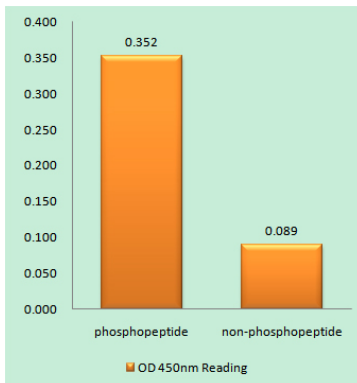
背景

この遺伝子は、EFハンドカルシウム結合タンパク質ファミリーのメンバーをコードしています。これは、ホスホリラーゼキナーゼの4つのサブユニットの1つである同一のカルシウム結合タンパク質をコードする3つの遺伝子のうちの1つです。2つの疑似遺伝子が7番染色体とX染色体上に同定されています。この遺伝子には、異なるアイソフォームをコードする複数の転写バリエーションが見つっています。[RefSeq 提供、2009年10月]機能: カルモジュリンは、Ca(2+)による多数の酵素およびその他のタンパク質の制御を媒介します。カルモジュリン-Ca(2+)複合体によって刺激される酵素には、多くのタンパク質キナーゼとホスファターゼが含まれます。CEP110 およびセントリンとともに、中心体周期および細胞質分裂の進行を制御する遺伝的経路に関与する。、その他: このタンパク質は4つの機能的なカルシウム結合部位を有する。、PTM: リン酸化は活性を低下させる。、PTM: ユビキチン化は活性を著しく低下させる。、類似性: カルモジュリンファミリーに属する。、類似性: 4つのEFハンドドメインを含む。、細胞内局在: 間期には細胞全体に分布するが、有糸分裂時には紡錘体極および紡錘体微小管に著しく局在する。、サブユニット: MYO1Cと相互作用する(類似性による)。CEP97、CEP110、TTN/タイチン、SRYと相互作用する。、

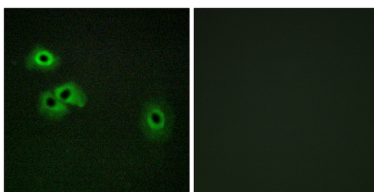
研究分野

カルシウム、ホスファチジルイノシトールシグナル伝達系、卵母細胞減数分裂、血管平滑筋収縮、長期増強、神経栄養因子、嗅覚伝達、インスリン受容体、GnRH、メラニン形成、アルツハイマー病、神経膠腫、

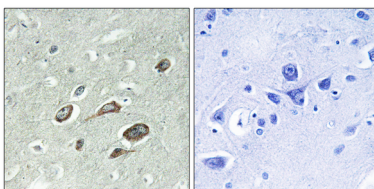
画像データ



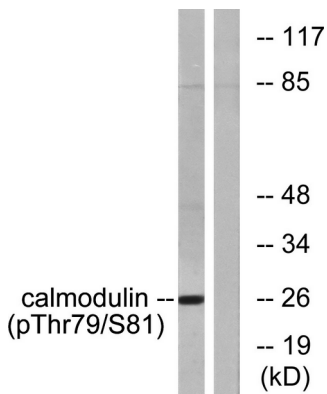
カルモジュリン (リン酸化 Thr79+Ser81) 抗体を用いたリン酸化ペプチド (リン酸化左) および非リン酸化ペプチド (リン酸化右) 免疫原の酵素結合免疫吸着測定法 (リン酸化 ELISA)



カルモジュリン (リン酸化 Thr79+Ser81) 抗体を用いた HepG2 細胞の免疫蛍光染色。右の写真はリン酸化ペプチドでブロックした状態。



カルモジュリン (リン酸化 Thr79+Ser81) 抗体を用いたパラフィン包埋ヒト脳の免疫組織化学染色。右の写真はリン酸化ペプチドでブロックした状態。



インスリン 0.01U/ml を 15 分間処理した Jurkat 細胞のライセートを、カルモジュリン (リン酸化 Thr79+Ser81) 抗体を用いてウェスタンブロット解析した。右レーンにはリン酸化ペプチドでブロッキングされている。

ホスホカルモジュリン (T80/S82) ポリクローナル抗体を用いた様々な細胞のウェスタンブロット解析

